

中学国文法

はじめに

本書は、中学校学習指導要領の国語科編に準拠し、中学校で学習する国文法を系統的に理解し、文法の力を確実に定着させることを目的として編集されています。解説を読み、基礎的な文法のしくみを理解したのち、さらに実際に数多くの問題を解くことで、応用・発展的な力も養われます。そのため定期テスト対策になるほか、高校入試対策としてもご利用いただけます。「本書の特色」を十分に理解し、この本を大いに活用してください。

本書の特色

●要点のまとめ

学校で習う文法の基礎知識と重要事項が図や表を使ってわかりやすくまとめて解説してあります。

●例題

「要点のまとめ」で学習した、必ず理解しておかなければならない基本的なことからを確認するた
めの問題です。「要点のまとめ」のどの箇所に対応しているかがわかるように番号で示しています。

●確認問題

その単元で学習することが、十分身につくように、教科書レベルの問題を様々なパターンで出
題しています。

●練習問題

各単元で学習した内容が定着しているかどうかを確認できます。各章の中に適宜用意されており、
単元ごとに学習した内容を、他の単元と関連させて学習することができます。

●実践問題

各章の終わりに、その章のまとめとして用意した発展問題です。試験に出やすいパターンの問題で
すので、定期テスト対策にもなるほか、実際に入試に出題された問題を解き、力をつけることができ
ます。

●特集 まぎらわしい語の識別

入試の文法問題の中で、特に出題頻度の高い、品詞の識別や助動詞・助詞の意味・用法について、
その見分け方のポイントをまとめてあります。

●入試直前・総仕上げテスト

文法学習の仕上げとして、実際の高校の入試問題から良問を精選して、模擬テスト形式にしてあり
ます。入試直前に総合的な実力判定テストとして役立ちます。

もくじ

1	言葉の単位	4
2	文の成分①(主語・述語・修飾語)	6
3	文の成分②(接続語・独立語)	8
4	文の組み立て	10
練習問題①		12
5	単語の種類	14
第一章 実践問題		16
第二章 活用しない自立語		18
6	名詞①(名詞の種類)	18
7	名詞②(名詞の働き・構成)	20
練習問題②		22
8	副詞・連体詞	24
9	接続詞・感動詞	26
練習問題③		28
第二章 実践問題		30
第三章 活用する自立語		32
10	動詞①(動詞の働き・動詞の活用)	32
11	動詞②(五段活用)	34
12	動詞③(上一段活用・下一段活用)	36
13	動詞④(カ行変格活用・サ行変格活用・自動詞と他動詞)	38
練習問題④		40
14	形容詞	42
15	形容動詞	44
練習問題⑤		46
第三章 実践問題		48
第四章 活用しない付属語		50
16	助詞①(格助詞)	50
17	助詞②(接続助詞)	52

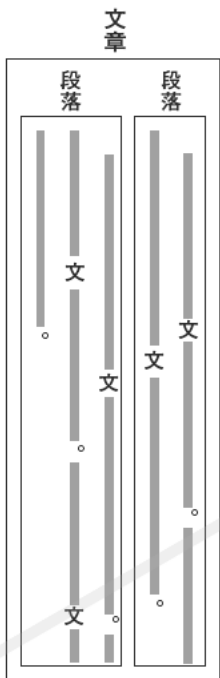
中学国文法

18 助詞③（副助詞）.....	54
19 助詞④（終助詞）.....	56
練習問題⑥.....	58
第四章 実戦問題.....	60
第五章 活用する付属語	
20 助動詞①（性質と働き／せる・させる）.....	62
21 助動詞②（れる・られる／たい・たがる）.....	64
22 助動詞③（た／ない・ぬ）.....	66
23 助動詞④（う・よう／まい／だ・です／ます）.....	68
24 助動詞⑤（そうだ・そうです／ようだ・ようです／らしい）.....	70
練習問題⑦.....	72
第五章 実戦問題.....	74
第六章 敬語・古典の基礎	
25 敬語①（尊敬語・謙讓語・丁寧語）.....	76
26 敬語②（誤りやすい敬語）.....	78
練習問題⑧.....	80
27 古典の基礎①（古文の基礎）.....	82
28 古典の基礎②（漢文の訓読）.....	84
第六章 実戦問題.....	86
高校入試対策	
特集 まぎらわしい語の識別.....	88
（ある／ない／だ／で）.....88 （でも／から／が／の）.....90	
（と／に／な／らしい）.....92 （よく／また／助動詞の意味）.....94	
第一回 入試直前・総仕上げテスト.....	96
第二回 入試直前・総仕上げテスト.....	98
第三回 入試直前・総仕上げテスト.....	100
資料 品詞分類表.....	102
用言活用表・付属語一覧.....	103
さくいん.....	104

1 言葉の単位

*** 要点のまとめ ***

- ① 言葉の単位は、大きい順に、文章・段落・文・文節・単語となる。
- ② 文章：言葉の最も大きな単位。いくつかの文が連なって、全体としてひとまとまりの内容を書き表したものを文章という。
- ③ 段落：文章を内容のまとまりごとに区切ったひとまとまりを段落という。段落の初めは行を改め、最初の一字を下げて書く。こうした形の一つ一つの段落を形式段落といい、意味上のまとまりから、いくつかの形式段落をひとまとまりにしたものを意味段落という。
- ④ 文：まとまったひとつの意味を持たせて言い終わるひと続きの言葉を文という。文の終わりには句点（。）を付ける。



- ④ 文節：発音や意味のうえで不自然にならない程度に、文を短く区切ったひとまとまりを文節という。文を文節に区切るには、「ネ」や「サ」などを入れてみるとよい。
- ⑤ 単語：言葉の意味を壊さないように、文節を細かく分けたもの。言葉の最小単位を単語という。

例 バラの花が散る。：文 ↓ バラの／花が／散る。：文節

バラの／花が／散る。 ↓ バラの／花が／散る。：文節

●間違えやすい文節・単語の区切り●

- 「〜て(で)」+「ある(いる・くる・しまう)」は、文節に区切る。
- 接頭語や接尾語が付いた語や複合語は、一単語。

例 駅前一の／レストランで／ご飯を／食べて／いる。

↓「駅前」の複合語＝一単語

↓「こ」は接頭語＝一単語

*** 例題 ***

- 1 《段落・文》 次の文章は、いくつかの段落、いくつかの文からできているか。

漢数字で答えなさい。

（ ↓ ②③ ）

つぶつぶ泡が流れて行きます。蟹の子供らも、ぽっぽっぽつと、つづけて五六粒泡を吐きました。それはゆれながら水銀のように光って斜めに上の方へのぼって行きました。

つうと銀の色の腹をひるがえして、一疋の魚が頭の上を過ぎて行きました。

段落の数 「 〃 」 文の数 「 〃 」
(宮沢賢治「やまなし」)

- 2 《文節》 次のア〜ウのうち、文節の区切り方として正しいものを一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 赤い／バラの／花が／咲いている。 (↓ ④)

イ 赤い／バラの／花が／咲いて／いる。 (〃)

ウ 赤い／バラの／花／が／咲いて／いる。



「ネ」や「サ」を入れて確かめよう。「〜て〜」の形に注意だよ。

- 3 《単語》 次のア〜ウのうち、単語の区切り方として正しいものを一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 談話／室／で／お／菓子／を／食べる。 (↓ ⑤)

イ 談話室／で／お／菓子／を／食べる。 (〃)

ウ 談話室／で／お菓子／を／食べる。 (〃)



文節に分けてから、さらに細かく分けるんだ。

確認問題

- 1 《文章・段落》 次の文章を、「」の部分で二つの段落に分け、原稿用紙に清書しなさい。

春は明け方がいい。山ぎわの空がだんだん白くなっていく様子はすばらしい。「夏は夜がいい。月のころは特にすてきだ。」

- 2 《文》 次の文章に句点（。）を付け、いくつの文できているかを漢数字で答えなさい。

春の暖かい日に、思い立って散歩に出かけた空は澄みわたり、桜のつぼみが薄く色づいているもうすぐ満開になるだろう

- 3 《文節》 次のア～ウのうち、文節の区切り方として正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いろいろな物を／押し流して／水は／流れていった。 「」
 イ いろいろな物を／押し流して／水は／流れて／いった。
 ウ いろいろな物を／押し／流して／水は／流れて／いった。

「〜」の部分の区切り方に注意しよう。

- 4 《文節》 次の各文を文節に区切り、斜線（ \diagdown ）を入れなさい。

- (1) 庭の草花に水をやるのを忘れた。
 □(2) 雪をいただいたいた高い山が輝いている。
 □(3) あそこに見えるのが峠の山小屋だ。

- 5 《単語》 次のア～ウのうち、単語の区切り方として正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私／は／じつと／庭／に／立ちつくし／て／いた。 「」
 イ 私／は／じつと／庭／に／立ちつくして／いた。
 ウ 私／は／じつと／庭／に／立ち／つくして／いた。

- 6 《単語》 次の各文を単語に区切り、斜線（ \diagdown ）を入れなさい。

- (1) 母はゆっくり歩く。
 □(2) 図書館で本を読む。
 □(3) 子どもたちが庭を走り回る。



・文節に分けてから、さらに細かく区切ろう。
 ・複合語や、接尾語が付いた語は、一単語だよ。

- 7 《文節・単語》 次の文について答えなさい。

音楽室からきれいな歌声が聞こえてくる。

- (1) この文を文節に区切り、斜線（ \diagdown ）を入れなさい。

音楽室からきれいな歌声が聞こえてくる。

- (2) ———線部「歌声が聞こえてくる」を単語に区切り、斜線（ \diagdown ）を入れなさい。

歌声が聞こえてくる

- (3) この文はいくつの単語できているか。漢数字で答えなさい。

「 」 5